

COPDの話

突然ですが、みなさんは「COPD」という言葉を聞いたことがありますか？
COPDは、chronic obstructive pulmonary diseaseという英単語の頭文字をとったものであり、日本語に訳すと“慢性閉塞性肺疾患”といいます。

しかし、日本語でもどのような疾患かよくわからないところが、COPDという疾患がなかなか周知されない原因ではないかと思えます。

COPDはいわゆる「タバコ肺」といって、長期にわたる喫煙者に多く見られる疾患です。

住民調査から、日本全体で約530万人のCOPD患者（40歳以上で12人に1人の割合）がいると推計されていますが、実際に適切に診断と治療を受けている患者さんは22万人しかいないのが現実です。



COPDは、喫煙などで有害なガスが肺に入ることにより、肺胞という小さな袋が破壊され、肺気腫という大きな袋に変化します。すると、肺の換気効率が低下し、肺気腫同士が細い気管支を圧迫して閉塞させることで、息切れなどの症状を引き起こします。



大まかに説明すると、「息は吸えるけど十分に吐けない」、「息を吸っても酸素をうまく取り込めない」という障害のため、坂道や階段の歩行時に呼吸困難が出現します。

COPDが進行した状態を、テレビを通して体現してくださっていたのが、笑点の故 桂歌丸師匠です。痩せ細って鼻から酸素を吸う生活となり、肺炎を発病してお亡くなりになりました。

酸素投与を必要とすることなく、生涯肺を大事に使うためには、早期禁煙・早期発見・早期治療が重要となります。

禁煙を始めた時点で肺胞破壊の進行は止まりますが、愛煙家の方にとっては禁煙が最もハードルが高い治療であることも事実です。ですが、禁煙治療は条件を満たせば保険診療が受けられますので、ぜひご利用ください。

また、COPDは、呼吸機能検査という息を吸って吐くだけの簡単な検査で発見が可能です。過去に喫煙していた、または現在もしている方で息切れ症状を感じる方は、一度当院へ足をお運びください。



なご

和みの医療センター 長野県立阿南病院 ☎22-2121 内科 岩波 直弥

～インフルエンザ予防接種について～

インフルエンザが依然として流行しています。一度インフルエンザにかかった方が再度感染する可能性もあります。阿南病院では、予防接種を1月末まで受け付けています。

これからの受験シーズンに備え、安心材料の一つとしてぜひ予防接種をご検討ください。

